

「技術に勝るチーム力」

大商学園高等学校(利倉東) 女子サッカー一部



平成27年度(2015年度)の全国高等学校総合体育大会(インターハイ)で見事、準優勝を果たした大商学園高校女子サッカー部。これまでに年代別日本代表メンバーにも選手を輩出するなど、平成18年の創部以来、常に関西の高校女子サッカー界をけん引する存在です。

そんな強豪校には、南は沖縄、北は関東と全国から入部希望者が集まります。経験者が多くを占めるなか、高校からサッカーを志す生徒もいます。FWの3年生・丸田彩季さんはその一人。「当初はまわりのレベルの高さにくじけそうになったけれど、みんなと一緒に練習を続けるなかで、自分が上達していることが実感できました。今は同じ立場の後輩たちが早くチームになじめるようなサポートを心がけています」と、内部に壁を作らないチームの魅力を話してくれました。



インターハイ決勝は大会4連覇を狙う日ノ本学園高校(兵庫)と対戦。0-0のまま突入したPK戦で4-5と惜しくも準優勝

そんなチームが大切にしているのは人間力とチーム力。「ここ一番の局面では、技術よりも人間力やチーム力が、事態を打開する本當の力になります。これは、創部から続く大商学園女子サッカー部のスピリット」と岡久獎監督。そのために「選手たちには、高校生活全般において、挨拶やごみ拾いといった基本的な生活マナーはもちろん、感謝する気持ち、思いやりの心を忘れないことなどを伝えていきます」。

サッカーの指導でも、選手の自主性を引き出すことに重きを置いており、目標やトレーニングのメニューなども選手同士で話し合います。「学年に関係なく、話しやすい環境づくりが目標。コミュニケーションを活発にして、チームの一体感を高めたいです」とキャプテンでFWの中山桃香さん。部員たちの良好な関係はプレーにも現れてくるでしょう。ともにMFとして



創部3年目から指導する岡久獎監督

今冬の全日本高等学校女子サッカー選手権大会は、現チームの集大成となる舞台。「大商学園で日本一をめざす」という選手たちの思いがかなうことを、地域のみならず願っています。



必要なものは自分たちでつくる 高齢者の居場所づくり



栗田文代さん
ビー・ジーみなみは現在、介護保険事業者として認知症対応型デイサービス運営

必要なことはみんな
利用者が教えてくれた

「生協の仲間たちで、お弁当の宅配を始めたところ、宅配先の家族から「親の介護が大変」という相談を受けたことがきっかけです」と話すのは、NPO法人ビー・ジーみなみ(新千里南町)の栗田文代さん。当時、認知症はまだ「痴呆」と言われて、ケアの体制も未整備のまま。そのため、特別養護老人ホームでさえ入所を断ることが多かったそうです。「認知症のご本人も家族も、社会から孤立している実態を知って、放っておけなかったのです」。東京にある民間デイサービスの存在を知り、体験研修のため訪問。そこで、「大切なのは、どうすれば本人が穏やかに過ごせるかを考えること。特別な技術は必要ない」と言われた言葉を頼りに、「行き場のない認知症の方を受け入れるデイサービスを市内で初めてスタート」。

「利用する人は一人ひとりがみんな違う。毎日が発見の連続でした」。



「シルバーデイハウスあさひ」では、一緒に洋裁や健康麻雀などをして、仲間と楽しく過ごします

教科書がないなかで、目の前の現実を見て、みんなで考えて、方法を見つけていく。「何もかも手探りでしたが、一緒に悩み、相談できる仲間がいたからこそできた」と栗田さんは振り返ります。

その後、栗田さんたちの民間デイサービスがモデルとなり、平成6年に豊中市で、「シルバーデイハウス」として事業補助が制度化されます。続いて、大阪府でも街かどデイハウスとして事業化され、府内全域に広まっていきました。(※)

自分が行きたいと思える
居場所をつくりたい

平成12年の国の介護保険制度開始に伴い、「街かどデイハウス」は、要介護認定を受けた方を対象とする居宅サービス事業者に移行するか、介護予防事業として元気な高齢者を支援する現在の「街かどデイハウス」として再出発するかわを選択することとなりました。

平成6年から「シルバーデイハウスあさひ」(中枚塚)を運営する杉村久美子さんも、早くから重度の認知症の方を受け入れてきたデイサービスの草分け的存在。現在は利用者が仲間と楽しく過ごす場を提供して高齢者を支えています。

「日替わりのプログラムで洋裁、絵画、カラオケなど、高齢者のための文化教室のスタイルですが、これらはあくまで仲間づくりの媒体。年をとっても好きなことを一緒にできる仲間がいたら、元気になれる。大きな声で歌って「楽しかった!」と帰っていく。洋裁でひとつ作品を作ると、次は何を作るのかと欲が出てくる。そんな姿を見るだけで報われた気がします。本当は自分が一番楽しんでいきます」と笑います。

(※)大阪府は平成23年に補助金を廃止



杉村久美子さん

高齢者が仲間と一緒に楽しく過ごせる場を提供する「街かどデイハウス」は、平成3年(1991年)に、豊中から始まりました。地域でボランティア活動を行う女性たちが、認知症の高齢者とその家族を支えたいと始めた事業が制度化され、大阪府内に広まりました。